

作成日:西暦 2026 年 03 月 15 日

## 研究に関するホームページ上の情報公開文書

**研究課題名:** 静注抗菌薬の廃棄量を用いた CO2 排出量の可視化及び施設間での排出量の比較: 多施設後方視観察研究

本研究は藤田医科大学の医学研究倫理審査委員会で審査され、学長(多機関共同研究の場合は)研究機関の長の許可を得て実施しています。

### 1. 研究の対象

2022 年から 2025 年の各月での、Barcoding medication record を基にした抗菌薬使用量、延べ入院患者日数、抗菌薬使用患者数、抗菌薬併用患者数等を収集に同意した医療機関が対象になります。

### 2. 研究目的・方法・研究期間

抗菌薬は多様な感染症の治療に不可欠である一方、抗菌薬使用に伴う薬剤耐性菌 (antimicrobial resistance: AMR) の出現は重大な課題であり、新たに出現する AMR への対応として、新規抗菌薬の開発が進められてきた。しかし新規抗菌薬が利用可能となったにもかかわらず、さらなる AMR の進展が認められており、抗菌薬の適正使用はこれまで以上に強く提唱されている。

抗菌薬適正使用支援プログラム (antimicrobial stewardship program: ASP) は、医療現場における適切な抗菌薬使用を促進するために発展してきたが、それだけでは AMR の進行を防ぐには不十分である可能性があり、抗菌薬使用は依然として継続的な改善を必要としている。

また、現在の医療現場では、過剰な抗菌薬使用が問題となる一方で、抗菌薬の供給不足によって適切な治療ができない状況も頻繁に生じており、抗菌薬の適正使用と供給確保の両立が課題となっている。

このような状況下で、近年では抗菌薬を含む医療資源の使用を最適化することを目的として、リソース・スチュワードシップ (resource stewardship) という概念が発展してきた。医療廃棄物は、その量を可視化するために CO2 排出量に変換される。

静注抗菌薬は、基礎疾患や加齢による腎機能低下を有する患者に対して用量調整が必要となるため、バイアル残量が廃棄されることも多い。しかし、医療機関での抗菌薬廃棄量の実態や、抗菌薬廃棄量の施設間差については十分に評価されていない。下記の内容を目的に、本研究を実施することにした。なお、研究期間は倫理審査委員会承認日～2028 年 3 月 31 日であります。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報は各参加医療機関における抗菌薬使用量となる。それらを正確に評価するため、抗菌薬使用量、延べ入院患者日数、抗菌薬使用患者数、抗菌薬併用患者数等を使用します。

### 4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。拝受したデータは、当施設の研究責任者（本田仁）が保管・管理します。

### 5. 研究組織

研究代表者：

藤田医科大学 微生物学講座・感染症科 臨床教授 本田仁

共同研究機関：

東京都立多摩総合医療センター

研究責任者 村上修太郎

順天堂大学

研究協力者 薬剤部 青嶋瑞樹

研究責任者 総合診療科 鈴木麻衣

東京科学大学

研究協力者 薬剤部 山本理紗子

研究責任者 感染症科 岡本耕

既存試料・情報の提供のみを行う機関：

該当なし。

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称]責任を有する者とは研究機関の長:

藤田医科大学 学長 岩田仲生

### 6. 除外の申出・お問い合わせ先

試料・情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し

出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

藤田医科大学 微生物講座・感染症科

担当者: 本田仁

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

電話 0562-93-2000

e-mail: hhhhonda@gmail.com

利益相反

この研究は、企業等からの資金提供は受けていません。また、この研究に関連する企業と研究者等との間に、開示すべき利益相反はありません。